

## 平成29年度総合型地域スポーツクラブ概要調査集計

調査対象クラブ 北ブロック16 中央ブロック21 南ブロック31 計68クラブ

■ホームページ掲載希望 1.希望する 30クラブ (ホームページ開設:32クラブ…47%)

### ○北ブロック8

- ・クラブこうし ・NPO 法人クラブおおづ ・やまが総合スポーツクラブ ・NPO 法人A-life なんかん
- ・クラブ南阿蘇 ・NPO 法人火の山スポーツクラブ ・菊池“ゆ”ったりスポーツクラブ ・高SPO

### ○中央ブロック7

- ・NPO 法人桜木ふれあいスポーツクラブ ・NPO 法人スポレク・エイト ・城北スポーツクラブ
- ・NPO 法人u&uN スポーツ植木 ・託麻西校区総合型スポーツクラブ ・出水南どっとネット
- ・田迎地域スポーツクラブ

### ○南ブロック15

- ・NPO 法人うとスポーツクラブ ・NPO 法人上天草スポーツクラブドリームズ ・JKA トレジャークラブ
- ・あいあいスポーツクラブたらぎ ・NPO 法人不知火クラブ ・クラブれいほく
- ・山都ふれあいスポーツクラブ ・UKI おがわクラブ ・ひかわスポーツクラブ ・アロマクラブ
- ・NPO 法人総合型クラブ SCC 宇城 ・さかもと未来クラブ ・嘉島町総合型地域クラブ
- ・NPO 法人ヴィラノーバ水俣 ・やっしろ総合型クラブ「リ・ボンズ」

## ◆PART I クラブの概要

### 1 平成29年度末の会員数について(66クラブ) (max954人 minimum3人)

- ・総数 16372人 平均 248人 (昨年度より1660人減)  
北ブロック4740人 中央ブロック6244人 南ブロック5388人
- ・小学生 6484人 平均103人 (全体の40% 昨年度より343人減)  
北ブロック1859人 中央ブロック2559人 南ブロック2066人
- ・中学生 1140人 平均17人 (全体の7% 昨年度より49人増)  
北ブロック271人 中央ブロック534人 南ブロック335人

### 2 指導者について

#### (1)指導者総数 1534人 (max147人 minimum2人)

無資格者数 1047人(68%)

有資格者数 487人 (32%)

日体協資格保持者 155人 その他の資格保持者 318人 不明 14人

#### (2)指導者謝金

①支払っていない 11クラブ(16%)

②支払っている 57クラブ(84%)

#### ③謝金額

##### ●1回単位

- ・300円 ・500円(4クラブ) ・600円 ・1000円(10クラブ) ・1500円(3クラブ) ・1700円
- ・1000~1500円 ・1800円 ・3500円

##### ●時間単位

- ・1時間700~750円 ・1時間1000円 ・1時間2000円 ・2時間1000~1500円

##### ●月単位

- ・月5000円

##### ●年単位

- ・10000円~40000円 ・36000円 ・42000円平均 ・50000円 ・60000円
- ・63000円 ・81600円

##### ●年間総額

- ・191000円 ・195000円 ・237892円 ・315000円 ・425000円 ・430000円 ・477000円
- ・500000円 ・700000円 ・900000円 ・1100000円 ・1300000円 ・1490000円

●その他

- ・参加者数に応じて 1000～4000 円
- ・有資格者は 1 回 1000 円、無資格者は 1 回 500 円(3 クラブ)
- ・有資格者は 1 回 1500～2000 円
- ・資格の有無に関わらず町外者 1 回 2000 円、町内者 1 回 1000 円
- ・町外在住者は月 10000 円、町内在住者は月 6000 円
- ・有資格者は 1 回 800 円～1000 円(リズム体操)、無資格者は 1 回 600 円(ロコトレ)
- ・有資格者は 1 回 1000 円、無資格者は 1 回 700 円
- ・有資格者は 1 回 2000 円、無資格者はなし
- ・有資格者は 1 時間 2000 円、無資格者は 1 時間 1000 円(2 クラブ)
- ・有資格者は 1 回 2000 円～3000 円、無資格者は 1 回 500～1000 円
- ・有資格者に 1 回 3000 円と 5000 円
- ・有資格者は 1 回 3000 円～7000 円、無資格者は年間 6000 円
- ・一部有資格者は 1 回 8000 円～10000 円、その他は一律 1 回 1000 円
- ・有資格者のみ年間 10000 円
- ・年間平均 13600 円
- ・有資格者は 1 回 10000 円～30000 円、無資格者は年間 5000 円
- ・有資格者は年間 60000 円(時給 1000 円)、無資格者は年間 10000 円
- ・無資格者の監督に年間 30000 円、コーチに 10000 円～20000 円
- ・サークルは年間平均 3200 円、教室は年間平均 5200 円(人数に応じて加算)
- ・スクール活動は年間 40000 円、サークル活動は年間 10000 円
- ・1 教室上限 2 名、一人年間 15000 円
- ・教室ごとに参加料から支払う
- ・前年の実績(活動日数・参加人数)から算出して種目に対して支払う
- ・ジュニア指導は 1 回 1000 円 エアロビクス教室、ヨガ教室は 1 回 3000 円
- ・指導のみを行っている指導者は 1 回 1000 円 自分も参加している指導者は 1 回 900 円
- ・指導月報提出後、出席実績に基づき支払い
- ・プログラムでバラバラ
- ・サッカー50000 円、卓球 30000 円、バスケットボール 20000 円、ノルディックウォーキング 10000 円  
スポンジテニス、バドミントン 15000 円
- ・ダンスエンジョイクラス 1000 円×参加人数 ダンスチャレンジクラス 3500 円×80%×参加人数  
大人のダンススクール 500 円×70%×参加人数 +1football2000 円×80%×参加人数  
ヨガ、骨盤体操 1000 円×80%×参加人数
- ・地域で指導可能な人が行っており謝金は支払っていないが、懇親会等を開催し会費を事務局負担としている

(3)実技やコンプライアンス遵守等の指導者育成 (研修会、講習会、派遣等)

- ①行っていない 48 クラブ(71%)
- ②行っている 20 クラブ(29%)
- ③頻度：年間  
1 回(8 クラブ) 2 回(7 クラブ) 3 回(1 クラブ) その他(4 クラブ)

(4)一般会員から指導者に移行した人

- ①いない(42 クラブ)
- ②いる(26 クラブ)
  - ・一般会員が一般会員対象プログラムの指導者に (9 クラブ)
  - ・一般会員がジュニア会員プログラムの指導者に (8 クラブ)
  - ・保護者会員がジュニア会員対象プログラムの指導者に (6 クラブ)
  - ・元ジュニア会員がジュニア会員対象プログラムの指導者に (2 クラブ)
  - ・元ジュニア会員がクラブスタッフに (1 クラブ)

(5)昨年度の研修内容を更新して本年度1月末に開催予定の「地域スポーツ指導者研修会」への参加について  
(会場設定の際の参考にします)

①参加を希望する(38クラブ) 143人

②未定(23クラブ)

③参加を希望しない(7クラブ)

### 3 会員の安全保険等への加入について

(1)強制加入(58クラブ)

(2)任意加入(7クラブ)

(3)その他(3クラブ)

- ・自治体の町民活動保険で対応
- ・会員区分で保険加入は強制と任意に分けている
- ・各種保険があるので統一加入はしていない

### 4 クラブマネジャー、アシスタントマネジャーの資格保有者について

(1)いる(57クラブ) クラブマネジャー(21)人 アシスタントマネジャー(105)人

(2)いない(11クラブ)

### 5 クラブ運営について

(1)運営委員会等の開催頻度について

①毎月実施(23クラブ)

②年に数回実施(23クラブ)

・2か月に1回以上(9クラブ) ・年5回(6クラブ) ・年4回(5クラブ) ・年3.2.1回(各1クラブ)

③必要に応じて実施(21クラブ)

④その他(1クラブ)

・休会中

(2)PDCA(計画立案・実施・評価・修正活動)サイクルによるクラブ運営の改善等について

①毎年行っている(14クラブ) ②行ったことがある(14クラブ) ③行っていない(40クラブ)

(3)地域に根差したクラブとして定着していくためのクラブによる地域課題解決に向けた取組について

①行っていない(35クラブ)

②行っている(33クラブ)

#### ●取組内容

- ・健康事業(健康促進) スポーツ振興(運動不足解消)
- ・夏休みプール開放についてのPTAとの協力 小学校運動部活動の社会体育移行に向けた研修会の開催
- ・現在役員会で協議し検討している段階
- ・旧鹿本郡市における山鹿市以外の地域への普及活動
- ・超高齢化社会の政策課題解決のための事業(介護予防・健康増進事業、子どもの体力向上に向けた事業)
- ・行政と協力し、高齢者向けの運動教室を行っている。
- ・クラブが主体となり、「町生涯学習課、町スポーツ推進委員協議会 町体育協会と当クラブ」で、不定期に「町スポーツ団体情報交換会」を開催している。
- ・市が主催する体験教室で、介護予防のためのケアトランポリン講座を開催
- ・小学校運動部活動の社会体育移行会議に参加して、クラブとして各学校の総合運動クラブを設立して指導を行っている。
- ・地域の各種団体とイベント等を実施している。
- ・高齢者の健康づくりに配慮した健康運動や子どもたちの運動機会を増やすためにジュニアプログラムの増設を行っている。
- ・高齢者向けのロコトレ健康体操、放課後子どもスポーツ教室、年10回のグラウンドゴルフ大会
- ・地元異業種の会の「未来を創る会」に参加 年6回の会合 2回のイベント

- ・小学校部活動との連携(話し合い)
- ・会員の地域の中での役割がどんどん多くなってきている。
- ・校区体育協会と合同会議を開催していろいろな意見を交換しながら地域住民との関わりを模索中
- ・市民対象のイベント開催 地域の行事への参加 地域で頑張っている他団体との交流
- ・夏祭りやどんどやのイベントを行い、クラブの周知また地域住民との交流を図っている。
- ・地域行事にクラブとして協力している。
- ・小学校運動部活動の社会体育移行について、受け皿としてミニバスケットボール部を総合型地域スポーツクラブを母体としたクラブチームに移行した。
- ・新規教室の検討と事業見直しについて会議内で検討
- ・教室指導者と学識経験者からなる定員 12 名の外部評価委員会の制度を導入し、年 2 回会議を開催して外部からの評価を検討している。
- ・運営委員会の活動と同じで、具体的なものはこれからである。
- ・体験教室の実施
- ・クラブの PR も兼ねて、年 1 回の AJTA 大会の開催
- ・会員以外の住民を対象にイベントを行っている。
- ・夏休みの小学生の居場所作り サマーチャレンジスクールの実施
- ・各地域の公民館にて健康教室の実施
- ・活動の様子をチラシ、ケーブルテレビ等で紹介するようにしている。
- ・大会開催時には教室からチームを参加させる。道の駅の販売促進を図る。地元女性部の豚汁提供を行う。全戸配布の市報にクラブ会報を一緒に入れて送ってもらう。
- ・今年度より小学校と連携し、陸上競技部の外部指導としてクラブから指導者派遣を行う。
- ・地域住民に対し SNS、市報、クラブ誌等でクラブの活動をアピールしている。
- ・話し合いはやっている。

#### (4)クラブ設立後の意向調査の実施について(プログラム、イベント、クラブ運営等)

##### ①実施していない(52 クラブ)

##### ②実施している(16 クラブ)

- 対象・地域住民(4 クラブ) ・会員(10 クラブ)
  - ・その他(2 クラブ) (一部の会員、体験会等)
- 頻度・毎年(10 クラブ) ・その他(6 クラブ) (イベント等の開催時)

#### (5)会計ソフトについて

##### ①使っていない(49 クラブ)

##### ②使っている(19 クラブ)

- ソフト名 ・会計王(NPO 法人スタイルシリーズ)(6 クラブ) ・ソリマチの会計王(3 クラブ)
  - ・財務応援(3 クラブ) ・弥生会計(3 クラブ) ・かるがるできる出納 ・記帳くん
  - ・出納簿 ・エクセル

## 6 会費について

### (1)年会費

#### ●子ども (県平均) 4652 円

北ブロック 4606 円 (max 24000 円 minimum1000 円)

中央ブロック 4686 円 (max 16000 円 minimum3000 円)

南ブロック 4653 円 (max 12000 円 minimum1000 円)

#### ●大人 (県平均) 6731 円

北ブロック 5984 円 (max 10000 円 minimum2400 円)

中央ブロック 6829 円 (max 16000 円 minimum3900 円)

南ブロック 7060 円 (max 24000 円 minimum1000 円)

●シニア（県平均） 5831 円

- 北ブロック 5266 円（max 10000 円 minimum2400 円）
- 中央ブロック 5790 円（max 16000 円 minimum3000 円）
- 南ブロック 6160 円（max 24000 円 minimum1000 円）

●年会費に含まれるもの

- ・保険料(46 クラブ) ・会場使用料(45 クラブ) ・指導者謝金(46 クラブ) ・教室消耗品代(42 クラブ)
- ・その他(9 クラブ：運営費、郵送料、大会参加費、イベント開催費、会員登録日・・・)

(2)ビジター参加費制度

●なし 35 クラブ(北ブロック 13 クラブ 中央ブロック 3 クラブ 南ブロック 19 クラブ)

●あり 33 クラブ(北ブロック 3 クラブ 中央ブロック 18 クラブ 南ブロック 12 クラブ)  
(max500 円 minimum100 円)

1 回あたり 100 円 4 クラブ、200 円 14 クラブ、250 円 2 クラブ、300 円 13 クラブ、  
350 円 1 クラブ、400 円 1 クラブ、500 円 10 クラブ)

- ・子ども、シニアを低く設定されているクラブあり
- ・合計額が年会費額を超えたら会員として登録する。 数クラブあり
- ・初回のみ無料、次回は 200 円、3 回目からは入会いただいている。
- ・ビジター券 11 枚綴り 5000 円…1 枚お得

(3)その他の会費設定

- ・月謝制の教室があり 教室ごとの月謝…2000～4500 円程度
- ・ファミリー会員制度 2 人 11000 円、3 人 13000 円、4 人 15000 円、5 人 17000 円
- ・ファミリー会員(4 人)10000 円
- ・家族会員 10000 円(何人でも可)
- ・家族会員 同居家族 3 人まで 5000 円 一人増し+1000 円 各プログラム活動費は各種設定あり
- ・家族割 2 人目からは 2000 円引き 無料体験…1 種目 1 回 教室の場合は年会費+1000 円  
アカデミー会員は中学生以下 3000 円、一般 4000 円、65 歳以上 3500 円。別途月活動費が必要  
J 会員(部活動移行)は年会費 3000 円 別途月活動費が必要
- ・ファミリー会員(3 人以上の家族)
- ・ファミリー14000 円 企業団体 20000 円
- ・ファミリー会員…1 人を除き半額 6 カ月会員…3000 円
- ・短期教室 1000 円(4 回)
- ・特別教室料金…子ども 1000 円(保険料のみ)、大人 2000 円(保険料のみ)
- ・月会費 1000 円
- ・月会費 1000 円/ジュニアサッカー教室
- ・月会員制度あり…子ども 300 円/月、大人 600 円/月
- ・1 回 200 円
- ・ワンコイン 1 回 500 円
- ・年会費の他に指導者種目については、年間 1000 円の追加徴収
- ・種目によって無料体験あり…1 回無料、2 回無料
- ・中途加入者については月割り
- ・水泳種目のみ選択された方は、年会費の半額を徴収する。
- ・教室内の規定として、クラブが支払う指導者謝金の他に別枠謝金を設定し独自に徴収している教室もある。  
フラワーアレンジメント教室は材料代実費を徴収
- ・ナイター陸上教室 5 回 500 円
- ・ダンス…エンジョイクラス 1500 円/月、チャレンジクラス 3500 円/月 大人のダンス 500 円/1 回  
+1football 週 1 回 2000 円/月 ヨガ、骨盤体操 1000 円/1 回
- ・活動費として月 1000 円 軟式野球教室は諸費用として月活動費 1000 円+1000 円  
消耗品費として…バドミントン教室は月活動費+小学生月 200 円、中学生月 500 円  
水泳教室…会員 1000 円、非会員 3000 円

- グラウンドゴルフ会員…年 1000 円と大会参加費 200 円、非会員は 500 円
- ・スクール参加費…小学 3 年生以下は月 700 円、小学 4 年生以上は月 1500 円
- ・プログラムごとに年会費を徴収 金額は学年ごとであったりと統一していない。

## 7 事業について

(1)年間を通したプログラム種目数平均  $877 \div 68 \approx 13$  (max51 種目 minimum1 種目)

●体育系種目数平均  $816 \div 68 = 12$  種目 (max51 種目 minimum1 種目)

●文化系種目数 61 種目 24 クラブで実施 (max8 種目)

●小学生対象プログラム 406 種目 (max35 種目) 数字はクラブ数

- ・サッカー関係 48
- ・バドミントン 41
- ・ミニバスケット関係 34
- ・野球関係 28
- ・バレーボール関係 27
- ・テニス関係 23
- ・卓球 21
- ・剣道 17
- ・ダンス関係 16
- ・陸上 15
- ・空手 10
- ・スポーツ、体育教室 10
- ・トランポリン 10
- ・体操関係 9
- ・柔道 7
- ・ソフトボール 6
- ・タグラグビー 6
- ・ハンドボール 5
- ・水泳 4
- ・ゴルフ 3
- ・ボウリング 3
- ・バレエ 3
- ・ニュースポーツ 3
- ・ボクシング関係 2
- ・ウォーキング 2
- ・相撲 2
- ・テコンドー 2
- ・日本拳法 2
- ・合気道 2
- ・太極柔力球 2
- ・和良久 2
- ・スポーツチャンバラ 2
- ・ヨガ 2
- ・アーチェリー 2
- ・その他 55

(2)シーズン制種目名

- ・水泳 12
- ・体育教室 3
- ・野球 2
- ・サッカー 2
- ・ニュースポーツ 2
- ・バレーボール 1
- ・エアロビクス 1
- ・陸上教室 1
- ・バスケットボール 1
- ・ちびっこ運動教室 1
- ・ヨガ 1
- ・水中運動 1
- ・スケート 1
- ・ラケットテニス 1
- ・体験教室 1
- ・カヌー 1
- ・山登り 1
- ・グラウンドゴルフ 1
- ・ペタンク 1
- ・放課後子ども教室 1

(3)イベント開催 ※熊本地震による中止事業あり

### ○クラブ単独

- ・夏祭り(5 万円)
- ・感謝祭(15 万円) バドミントン大会(5 万円)
- ・クラブ交流会(10 万円) 指導者研修会(20 万円) 各種目大会(各 10 万円)
- ・バーベキュー大会(12 万円)個人負担有り
- ・運動教室(0 円) グラウンドゴルフ大会(0 円)
- ・A-life 感謝祭(2 万円) オルレツアー(2.5 万円) 元気ツアー(年 2 回 計 43 万円)  
リフレッシュコース(年 2 回 計 21 万円)
- ・会員交流会(約 20 万円)
- ・HSC ゴルフカップ(60 万円)
- ・ウォーキング大会(320 万円) 泥りんピック(23.8 万円) ジュニアサッカー大会(15.7 万円)  
牛深交流事業(31.6 万円) その他 17.2 万円
- ・スポーツフェスタ in 龍田(10 万円 年 2 回) ふれあいスポーツフェスタ(5 万円 年 1 回)
- ・卓球大会(3 万円) 剣道大会(3 万円) グラウンドゴルフ大会(5 万円)
- ・東部スポーツクラブふれあいフェスティバル(約 20 万円)
- ・スポレクカップ ミニバレー大会
- ・アジャタ大会(3 万円) ジュニアバレー交流大会(2 万円)
- ・10 周年キッズサッカー大会(2.5 万円)
- ・パークゴルフ大会(4 万円) 金峰山登山(2 万円) ビーチボールバレー大会(8 万円)
- ・各種目、総合型クラブ対象に交流大会年 1 回 各種目 30 チーム以上の参加あり
- ・ミニバレーボール大会、綱引き大会、グラウンドゴルフ大会、ウォークラリー大会
- ・フットサル大会
- ・ミニバレーボール大会(8 万円)
- ・市民交流イベント(わくわくスポーツ) 小中学校卓球大会 スポーツフェスタ(無料体験)  
スポーツ推進団体交流ボウリング大会
- ・夏祭り(50 万円) どんとや(5 万円)

- ・夏休みちびっこスポーツ塾(3万円) ミニバレーボール大会(20万円 年間6回)  
ビーチボールバレー大会(1.2万円)
- ・さくら健康フェスタ(約130万円) クラブ交流会(約5万円)
- ・レクリエーション大会(3万円)
- ・ちびっこ相撲大会(30万円)
- ・交流イベント(スポーツ交流大会・1万円、ボウリング大会・3万円)
- ・6時間耐久リレーマラソン(約3万円) 球磨村ビーチボールバレー大会(約1万円)
- ・秋ハイキング(1.3万円)
- ・交流会(13万円) 野外活動(山菜採食、スタンプラリー、ウォーキングなど年3回・各7万円程度)
- ・グラウンドゴルフ大会(14828円) スポーツクラブ交流イベント(13824円)
- ・夏休み・春休み体験教室(2万円)
- ・炭焼き体験教室(2万円) 陸上教室(4万円)
- ・AJTA大会(10万円)
- ・ウォーキング、ニュースポーツ、グラウンドゴルフ、ジュニアサッカー(6万円)
- ・サマーチャレンジスクール(130万円)
- ・ホテル鑑賞会(0円) 会員交流会〈体力測定、バドミントン、卓球体験教室〉(0円)
- ・ソフトバレーボール大会
- ・親子ふれあい祭り・年2回(1回8万円) 新春ミニサッカー大会(5万円)
- ・ウォーキング(2~3万円)
- ・サッカー大会 GWサッカーフェスティバル・M2サッカーフェスティバル

### ○共催事業

- ・やまがハンドボール大会(市ハンドボール協会・0円) ペタンク大会(山鹿市ペタンク協会・0円)  
クロスカントリー大会(市陸上競技協会)
- ・スポーツ教室開催事業〈卓球教室〉(熊本県体育協会・6万円)  
チャリティゴルフ大会(町社会福祉協議会・11万円)
- ・にこにこフェスタ(町教育委員会・166500円)
- ・県北協会、クラブ杯バウンドテニス大会(バウンドテニス協会・0円)
- ・町民体育祭(校区体育協会・50万円 2年毎)
- ・校区夏祭り(自治会・5000円) 校区どんとや(自治会・5000円)
- ・ゴルフ大会(3校区体協・35万円)
- ・スポーツ大会〈バドミントン、卓球、バレーボール、ソフトボール、ミニバレー、ボウリング、  
グラウンドゴルフ〉(校区体協・2万円)
- ・西区フェスタ(熊本西区役所・90万円)
- ・校区体育祭、夏祭り、グラウンドゴルフ大会
- ・校区夏祭り(スポーツクラブで3万円)
- ・北区子ども祭り(0円) かつてん祭(0円)
- ・体育祭、グラウンドゴルフ
- ・グラウンドゴルフ大会
- ・地蔵まつり総踊り参加 24時間テレビチャリティ募金 宇土ジュニアサッカー大会  
市スポレク地区対抗アジャタ大会
- ・市ソフトバレーボール大会(市ソフトバレーボール協会・5万円)
- ・レクリエーション大会(3万円)
- ・新体操フェスティバル(町教育委員会・200万円)
- ・秋季球技大会バレーボール競技(町教育委員会・0円)
- ・地域ふれあい祭り(まちづくり協議会・11782円)  
校区民体育祭(まちづくり協議会・14226円)
- ・指導者講習会(村体協)
- ・フットパス大会(万江塾などと共催し11月に実施)
- ・ふれあいスポーツ大会(校区体協)

- ・校区民体育祭(校区体協・50万円) キッズサッカーフェスティバル(市体協・60万円)  
シニアサッカーフェスティバル(実行委員会・120万円)
- ・町商工会 町婦人会

### ○委託事業

- ・健康推進事業(町から・627万円) 支え合い事業(町から・720万円) トレーニングルーム運営(町から・980万円) 夏休みプール開放事業(町から・210万円)
- ・町介護予防・健康増進事業(町から・2268万円)  
子どもの体力向上課題対策プロジェクト事業(スポーツ庁から・239万円)
- ・元気ウォーク(市から・70万円) 市民チャリティゴルフ大会(市から・15万円)  
高齢者運動指導(市社会福祉協議会から・30万円)
- ・保育所運動教室(町から・98万円)
- ・マラソン大会(市から・2万円)
- ・体育館、グラウンド管理(市から・140万円)
- ・体育館、運動場管理(市から・103.2万円)
- ・体育館(市から・139万円)
- ・体育館(市から)
- ・体育館(市から・4.3万円×12ヶ月=51.6万円)
- ・市体育施設指定管理(市運動公園体育施設、市スポーツセンター)
- ・市総合スポーツ公園指定管理(市から・3,390万円)
- ・天草パールラインマラソン大会(天草パールラインマラソン大会組織委員会から)
- ・海族祭(海族祭り実行委員会から・3万円)
- ・B&Gモデル事業 水中運動・トランポリン教室(町から・24.5万円)
- ・体育館、武道館、多目的グラウンドの指定管理(町から)
- ・幼児体育支援事業(郡体協から・8万円、クラブ負担・8万円)

#### (4)会員の大会等への参加について

①参加していない(32クラブ)

②参加している(36クラブ)

- ・県大会(25クラブ) ・全国大会(10クラブ) ・国外大会(0) ・その他(9クラブ) ※重複あり
- 県大会・・・サッカー、陸上、野球、剣道、バスケットボール、県民体育祭、バレーボール、バウンドテニス、相撲、卓球、トランポリン、バドミントン、タグラグビー、太極拳
- 全国大会・・・剣道、陸上、バスケットボール、バレーボール、ボクシング、トランポリン、空手、バドミントン、エアロビクス、卓球、相撲、ソフトテニス、バウンドテニス、太極拳
- その他(近隣大会等)・・・サッカー、バスケットボール、剣道、卓球、ビーチボールバレー、ペタンク、アジャタ、陸上、3B体操

#### 8 平成28年度末決算時の自主財源率について

自主財源率＝(助成金を除く会費・寄付金・事業収入・繰越金等収入)÷総収入

県平均(64クラブ) 81% (100%が32クラブ)

#### 9 クラブ自慢(特色等)について(ネットワークアクション2018イン熊本・プログラムの参考にします)

- ・低価格でスポーツを楽しめる 多世代をターゲットとした教室経営 ジュニア育成から趣味のスポーツまでの多種多様な教室
- ・町内の各団体との連携(教育関係、町づくり関係、男女共同参画等) 学校との連携  
送迎付き教室の開催(高齢者の車免許返納の課題)
- ・ハンドボール教室に女子日本リーグのオムロンの選手が参加し、直接指導してくれる。
- ・地域のパートナー団体としての行政、学校との連携
- ・スポーツ系と文化系の両面を兼ね備えた生涯学習支援クラブ
- ・ファミリー参加者が多い。 ゴルフ、乗馬教室と他のクラブにはない種目がある。

- ・親子で参加できるプログラム ロコミのみで会員数確保  
学校や地域の事業所と連携しての体験教室実施(クラスレクレーションなど)
- ・学校と連携して総合運動クラブとして活動している。
- ・総合型と行政と地域が一体となって各種様々なイベントを実施している。その中でも、泥りんピックというイベントを実施しており、田んぼの中で泥まみれになりながらミニバレー等を行っている。最初は汚れないように競技を行っているが、少し泥まみれになると恥を捨てて全身泥まみれになってしまう参加者ばかりである。年々参加者が増えてきているが、最近では女性の参加者が増えてきている。泥まみれなった参加者には南阿蘇の温泉を用意しているので、その温泉で綺麗になってもらっている。また、地元の方々の応援も増え参加者・応援者の笑顔溢れる大会となっている。
- ・小学生の会員が多い。(バドミントン、ミニバスケットボール、サッカー)
- ・小学校運動部活動のスポーツクラブへの取り込み(エリア内小学校野球部)
- ・高齢者向け健康増進、人気プログラム企画、震災後の笑顔プロジェクトイベント、子ども放課後教室
- ・事務所にお客様が多い。
- ・校区体育協会とクラブ役員が同じ。(理事、運営委員) 完全受益者負担(寄付、助成なし)  
各種目にスタッフを1名以上参加させる。体育館等使用料は種目の月参加料にて処理する。
- ・キッズサッカー参加者が多い。
- ・学校や保育園、幼稚園との協力・連携がある。
- ・1000名前後の会員により50を超える教室を開講中である。教室充実のためヒヤリングを行い、毎年数教室は入れ替わっている。1昨年度より小学校運動部活動の社会体育移行に伴い、J会員という新たなクラスを設けサポートを行っている。施設の面で苦労はあるが、自主財源率100%を維持している。
- ・単独種目の参加が多い。
- ・当クラブの一番の人気は、「幼児・小学生体育教室」である。昨年最大時は70名の児童が参加。人数が多く、また、地震と重なり、会場確保が困難になったため、昨年の途中から幼児と小学生を分けて実施するようになった。1年間を4シーズン(春夏秋冬)に分け、マット運動、跳び箱、バンブーダンスや短縄、長縄など、いろいろな内容を行っている。
- ・小学生の体力向上とスポーツの楽しさを伝える。
- ・町などからの補助金は受けておらず、全て自主財源で運営している。
- ・トランポリンやスラックラインなどのニュースポーツが楽しめる。
- ・一般施設を除く使用料の免除
- ・現在の会員比率は、ジュニア45%、一般会員17%、シルバー38%となっている。主に小学生と60歳以上の活動が活発である。小学生に関しては陸上とミニバスケット教室の参加が大半であり、陸上の記録会では上位の成績を収め、ミニバスケットでは新たにクラブチームを作り練習を強化。城南大会で優勝という結果を残した。
- ・人が集まる人気プログラムがある、複数種目参加者が多い。
- ・大人と子どもが同時に楽しめる教室を展開している。
- ・子どもが多いクラブ 夏の学童は定員を超える申し込み 幼児体育をすることで、町立保育所の園児増
- ・過疎化の一途をたどっているが、全体的に平均的な年代で会員がいること
- 毎月の新聞を配布することで、認知度が増したこと
- ・地域貢献のためにクラブが核となり、地域の関係団体を取り込みながら連携し地域を盛り上げている。
- ・スポーツを通じた健康増進 学校を含めた他団体との連携

## 10 クラブの課題(複数回答可)

- (1)会員の増加(74%) 50クラブ(北9, 中16, 南25)
- (2)財源の確保(56%) 38クラブ(北7, 中10, 南21)
- (3)指導者の確保(66%) 45クラブ(北9, 中13, 南23)
- (4)次世代スタッフの育成(66%) 45クラブ(北9, 中16, 南20)
- (5)クラブの周知、啓発(47%) 32クラブ(北8, 中10, 南14)
- (6)他団体との連携(24%) 16クラブ(北3, 中4, 南9)
- (7)事業の拡大(27%) 18クラブ(北5, 中4, 南9)
- (8)その他(13%) 9クラブ(北3, 中1, 南5)

## ※課題解決に向けての手立て、方向性等

### (1)会員の増加 (74%) 50クラブ (北9, 中16, 南25)

- ・広報活動 よりよい魅力的なプログラム作り
- ・市民向けの広報誌を活用した PR 活動
- ・年々会員が増加していたが、震災後のH29年度は半減した。また例年同様、地元住民のクラブへの関心が薄く、入会者（成人）の殆どが移住者である。今後は、地元住民も関心の持てる健康促進に向けた取り組みを行っていかねばならないと思う。
- ・体験教室の開催
- ・指導者養成、PR。
- ・現在体育館の被災により、従来活動していた場所での活動が出来ず、大人クラス（日中）のみの活動を行っている。再開は来年4月からになる予定だが、その時どれくらいの割合の会員が戻ってくるか、指導協力が出来る指導員が何人いるか不安である。
- ・今一生懸命考えている。小学校運動部活動の社会体育移行が基点となると思い、それに向けて準備を行っている。
- ・小学校運動部活動の社会体育移行に関して各学校にクラブより派遣指導を開始したので徐々に増えてきている。だが、一般などの会員を集められるような教室やプログラムがないのが課題である。
- ・求められるプログラムの増設
- ・会員の高齢化に伴う会員数の減少
- ・広報誌の回覧、会員募集の広告配布、無料体験会の実施、イベント時のアピール
- ・小中学生のジュニア会員は毎年ある程度の人数を確保できているが、一般、シルバー会員が減少している。地域の町内グループや病院の職員に自由に使える日を決めて呼びかけている。
- ・昨年は熊本地震の影響もあり、会員数200名を切った。今年は地震前のように230名を目標に会員数を増やしたい。方法としては、スタッフや会員が口コミでクラブの良さを伝えて新規の会員を呼び込みたい。
- ・会場の確保がないと会員増は望めない。総合型クラブの行政及び各団体での認知度が低い。体育協会の下部組織とみられている。
- ・小学生等が多く卒業と同時に退部することが多いので回覧版・掲示板でスポーツクラブの紹介を実施していく。
- ・広報の活用。
- ・魅力あるプログラムを考える。
- ・新規プログラムの開設はなかなか難しいので既存プログラムの充実、各種イベントの実施など現在行っているものを充実させる。
- ・学校との連携、個人で活動しているチームの勧誘
- ・新たな種目の立ち上げにより会員増加を試みたいところだが、デメリットとして会場使用料や保険料、指導者の報酬増加もある。慎重に見極めながら対応したい。
- ・新規教室を開催するなどして教室対象者の拡大を図る。
- ・小学校の部活が社会体育へ移行することを受け、指導者の確保を中心とした受け入れ態勢の準備をすること。教育委員会と歩調を合わせ協同していくことが大切である。一般会員向けのプログラムを模索しなければならない。
- ・校区外の人が入会できないと思われているので、パンフレットにその旨を入れる。
- ・社会体育移行に伴う小学校部活動の受入体制の強化。会費設定の見直し。
- ・幅広い年代の方から参加してもらうために健康増進の一環として新規教室を開催する。→新規教室として、ノルディックウォーキング教室を開催
- ・大人の活動が課題。社会体育施設（体育館）がない。プログラムが作りにくい。
- ・小学校運動部活動の社会体育移行のタイミングで独自の放課後子ども教室開催の準備・調整中。
- ・SNS、ホームページ、広報誌をより活用し周知を図る。
- ・熊本地震の影響は昨年に引き続きある。活動拠点としている体育館が地元中学校の部活動が優先利用するため活動場所、時間が制限され、空いている体育館を利用して活動している。そのため大々的な募集をかけるのが困難な状況である。
- ・保護者送迎を解消するために、村独自の交通機関の新運行時間体制の変更と見直し。

- ・28年度開設初年度は、熊本地震の影響で全ての教室を中止した。クラブとしてのイベント「ふれあいウォーキング」の実施。
- ・魅力のある教室作りをすることで、会員を増やす。

## (2)財源の確保 (56%) 38クラブ (北7, 中10, 南21)

- ・収益を目的とした事業の拡大 委託授業を受託
- ・行政依存型ではない新規財源の開拓。行政からの委託事業ではない自主事業を常に念頭におく。
- ・まずは、会員数を増やす取組を行うこと。また公的な財政支援も継続して頂くため、行政の理解、連携が必要。今後法人化も検討。また、クラブ会員全員で取組んだ事業を考え、財源確保ができるようにしたい。
- ・会員数、協賛企業の増加、市やその他団体と協力。
- ・月謝制のクラス増加。
- ・現在補助金で財源が確保できていたが、補助金がなくなり会費と自主事業の収入となり運営が厳しい状況である。委託事業など事業の拡大を増やすことなどで財源の確保が必要になる。
- ・会員の在り方の検討
- ・受益者負担の認知度を図る。
- ・協賛金の獲得、助成金の申請、指定管理の確保。
- ・会員等が減少していくため財源が確保できないので、イベントなどを積極的に開催して人材を確保したい。
- ・賛助会員、協力金の確保。地元企業等への営業。
- ・イベントを行う。
- ・主事業の確立、拡大。イベント開催による収益確保。
- ・現在、委託を受けている施設の指定管理を継続する。
- ・施設使用料の減免
- ・市との連携
- ・年々繰越金が減少し総予算も減少してきている。クラブ事務は行政が行っているが、任意団体であるため、町からの助成金確保も難しい状況である。通年行ってきた事業の大幅な見直しや、年会費の増額も視野に入れながら改革していく。
- ・町事業などの教室一部委託
- ・会場使用料の減免を市に提出。サポーターを募集して、寄付を募る。
- ・教室参加料が増えるような魅力ある活動を行うこと。
- ・会員数と関係する。行政からの補助金がままたまらない。
- ・会員増だけでなく、顧客単価を上げるための事業展開
- ・クラブの周知を行い、会員が増えることで財源の確保を目指す。
- ・企業スポンサーの確保。行政補助金の延長。
- ・会員の会費等による自主運営が基本と考えられるが、今後のクラブ事業を少しでもゆとりを持って開催するためにも、町からの助成をお願いしたい。(事業の開催に伴い、クラブの周知・啓発にもつながっていくものと思われる。)
- ・会員増による自主財源の確保。賛助会員の確保。自主事業による財源確保
- ・委託事業につながる活動を行う。

## (3)指導者の確保 (66%) 45クラブ (北9, 中13, 南23)

- ・現在はできていない。
- ・現在は各プログラムで企画、運営、経理等をそれぞれの指導者が行っており、負担が大きい。指導者バンクを有効活用して、クラブで企画するプログラムの指導者を確保したい。師範や公認スポーツ指導者が少ない。体育協会、文化協会との連携・合併を望む。
- ・管外の指導者に頼るしかない状況である。
- ・教室を運営するにあたり指導者が少ないのが現状。指導者の確保が急務。
- ・人材バンク等の活用
- ・プログラム参加者、指導者へ総合型地域スポーツクラブの理解、運営への協力を求める。
- ・会員の保護者への呼びかけ。地域のスポーツ関係者との交流。指導者育成。
- ・友人への依頼

- ・各クラブ、また団体への協力依頼。
- ・種目協会との連携強化。指導者バンクの導入。
- ・現在指導して頂いている方々はもちろん継続していただく。
- ・PTA 等の各団体への指導者探しの要請
- ・地域との連携
- ・町事業との連携による担い手の確保
- ・指導者に謝金を少しでも渡せるように財源を確保する。
- ・それぞれクラブを作り、自分の活動で手一杯の人が多い。
- ・熊本市内の法人と連携し大学生の指導者育成事業をスタート。熊本学園大学とも連携しインターンシップ受け入れなども視野に行動中。
- ・スタッフ不足なのが現状。常に探しているが見つからないのが現状。
- ・資格取得援助を行い、指導者を育成。
- ・広報誌による指導者募集など
- ・各種教室等幅広い種目開催を目指す。指導者の発掘及び育成事業。
- ・小学校のクラブ活動の指導者に協力をお願いする。校区広報誌で呼びかける。

#### (4)次世代スタッフの育成 (66%) 45クラブ (北9, 中16, 南20)

- ・勧誘活動、宣伝。
- ・事務局交代により、クラブの本質を見直して土台となるものを確立させる。
- ・職員スタッフ育成についての体制(OJTの充実)、理事会を含めた組織の改革。
- ・現在はできていない。
- ・若い世代の会員が殆どいない。休日や夜間を利用した若い世代の参加しやすい活動環境を提供することが必要だが、活動する若者の殆どは体育協会など各競技で活動している。体育協会との連携を図り、クラブの指導者、小学校部活動指導者として育成したい。
- ・若い指導員が誕生したが、指導者研修を行うことができない上に、資格を役立てる機会がない。
- ・ボランティアとしてのスタッフ確保に難点がある。有償としてのスタッフの確保に向け、財源の確保に努める。
- ・SNSの活用、地域への広報活動を充実する。
- ・会員の保護者への呼びかけ
- ・各種目の代表者に呼びかけて、いろいろな協力をお願いしている。その中からリーダーになる人を探したい。
- ・若いスタッフにある程度の責任を持たせ、先輩スタッフが補助役として後継者を育成したい。
- ・現スタッフが高齢化の傾向にあり若者の参加が夜はできないのが現状である。いかにしてスタッフを育成したらいいかが問題なので、検討を重ねている。
- ・学校、保護者への協力依頼
- ・若い指導者の獲得
- ・ジュニアプログラムの卒業生が地元へ戻ってきているなどの情報を探り、プログラムのお手伝いなど指導者の道へつながるようなコミュニケーションを取っていく。
- ・PTA 等の各団体への指導者探しの要請
- ・町事業との連携による担い手の確保
- ・世代交代がなかなかうまくいかない。
- ・熊本市内の法人と連携し大学生の指導者育成事業をスタート。今後、熊本学園大学とも連携しインターンシップ受け入れなども視野に行動中。小学生の段階からリーダー育成を主眼に置いた教室をスタート。この子らを長い目で見ていき、クラブの指導者として関わっていく流れと育成をスタート。
- ・クラブ運営に携わる人材の育成。運動部活動の社会体育移行に伴い、受け皿となる総合型クラブの土台づくり。
- ・次世代スタッフの発掘及び育成
- ・スポーツ教室参加者の保護者等に呼びかける。

#### (5)クラブの周知、啓発 (47%) 32クラブ (北8, 中10, 南14)

- ・町の広告誌等行っているが、行き詰まり気味。
- ・市内小学校全員に小学校を通じ参加申込書を配布
- ・市の広報にてスポーツクラブの啓発をしている (年1回・3月)

- ・(1)でも挙げたが、クラブ設立して10年目になるが、未だに地元住民に浸透していない。もっと大々的に事業を行い地元住民に興味・関心を持ってもらう必要があるが、クラブ単体で行う力は限られており、行政の協力がもっと必要。広報などは毎月掲載している。
- ・SNSを利用
- ・広報活動などは行っているが、まだまだ知られていないのが現状である。一時的な広報活動だけでなく継続的な広報活動を考えなければならない。
- ・地域の回覧、新聞等を利用し周知を図る。
- ・広報誌の回覧、体験会告知、FB、LINEなどのSNS。
- ・町内の回覧板や掲示板を利用しているが、日頃の活動をもっとわかりやすくなるように、広報を充実させたり、クラブのイベントをもっと増やしたりしたい。
- ・クラブ広報誌を毎年全所帯へ配布しているが、なかなか周知されていない。今後は色んな場でクラブのPRを行いたい。それとクラブ会員の皆さんへお願いして、友達や知人にクラブのことを口コミで紹介してもらう考えである。
- ・最近ではスポーツクラブについての校区の方々の認知度は高くなったが、依然加入される方は少なくスタッフ一同検討しているところである。
- ・広報活動
- ・広報活動の回数を増やす。
- ・イベント等でのクラブPR
- ・町内外の異業種団体とも機会があれば交流していく。
- ・アユスポだより（月に1回住民へ回覧）の作成
- ・広報がマンネリ化している。
- ・何かをやらないことには、クラブの存在すら知られていない。まずは、小さな事業（イベント等）をひとつでも開催できる工夫が必要。
- ・体験教室。校区広報誌などで周知を図る。

#### (6)他団体との連携 (24%) 16クラブ (北3, 中4, 南9)

- ・スポーツ推進委員、村体育協会、村文化協会との連携をとり、法人化を検討。（小学校部活動社会体育移行、また事務局体制を整える）また、他町村との団体（クラブ）との連携が取れていないのも課題…。
- ・各団体等へ目的を共有する事業等の共同開催の呼びかけ実施
- ・参加意欲を持てるようなメニューの実施を検討し、広報等で周知する。
- ・連絡協議会への参加
- ・顔を出し、親睦を深める。
- ・市体育協会や種目協会と連携し、共同事業やイベントの開催を行っていく。
- ・学校との連携
- ・関心があまりない。
- ・市内にある3つの総合型との連携 将来的には一つのNPO法人として活動をするために話し合いを進めている。
- ・まちづくり協議会との連携

#### (7)事業の拡大 (27%) 18クラブ (北5, 中4, 南9)

- ・委託事業受託 健康事業の計画
- ・異業種との連携による新規事業の開拓。運動・スポーツに捉われず、公共性の高い事業にも着目していく。
- ・以前実施していた「夜峰山開き」が、震災の影響で実施できなくなった。クラブの目玉となるイベントを作らなくてはならない。今後は委託事業も視野に検討する。（村民向けに、体協・文協との連携事業も）
- ・指定管理獲得
- ・スポーツ以外の文化系種目や短期のイベントや教室を工夫したい。
- ・他クラブの事業を参考に考える。
- ・指定管理の継続、社会体育の充実、時代のニーズに応じたプログラム、事業の拡大に伴う人材確保。
- ・社会体育移行に伴う小学校部活動の受入体制の強化。現在の種目以外の参加団体獲得。
- ・事業拡大を行うが、しっかり稼げる事業展開を行う。適正価格の事業を実施し関わったスタッフに謝金を適正

に支払う。クラブも絡んだ地域にない新たな事業展開を構想中（初期段階）

- ・宇城市内にある3つの総合型との連携 将来的には一つのNPO法人として活動をするために話し合いを進めている。3クラブの合併に伴い、事業を拡大する。
- ・小さな事業（イベント等）をひとつでも開催できる工面が必要。事業の拡大より、まずは事業の実施。

## (8)その他 (13%) 9クラブ (北3, 中1, 南5)

- ・会員の確実な定着
- ・クラブ会員としての自覚が薄い。(各プログラム参加者としての自覚でしかない)クラブへの関心を高めるため、メリットや成果をもっと出さなくてはならない。また、クラブ役員が、クラブとは何か…役割、必要性をもっと学ばなくてはならない。
- ・校区でコミセン及び公民館等でのジュニアの施設使用で体育協会事業は無料、総合型クラブは有料である。
- ・熊本県も熊本市も体育協会の各種団体に総合型クラブが入っていない。熊本市は総合型クラブの事務局もなく、事務局長もいない。
- ・スタッフのミーティング等を多く行って、各クラブのよいところを取り込んでいきたい。
- ・地域の事業所と会員のつながりをつくりたい。総合型クラブと各種団体とのイベントをつくりたい。
- ・指導者の方の総合型クラブに関する考え方の統一
- ・これまでは行政との連携を掲げてきたが、担当者が代わると理解を得難い状況にあり、小学校部活動の受け入れなどの問題には意見の合致は難しい状況である。
- ・使用できる会場の確保。校区外の活用。公園などの活用。

## ◆PART II クラブと学校との連携について

### 1 学校との連携状況

(1)していない(56%) 41クラブ (北8, 中10, 南20)

(2)している(44%) 30クラブ (北8, 中11, 南11)

#### ◆北ブロック (8クラブ)

○NPO 法人クラブおおづ

- ・小学校の授業や行事にスタッフや指導者を派遣している。

○NPO 法人 A-life なんかん

- ・子どもの体力向上課題対策プロジェクトの実施(サポーター派遣、教職員向けアドバイザー派遣など)

○南阿蘇村生涯学習支援クラブ「クラブ南阿蘇」

- ・学校から依頼があればクラブの指導者(会員)を派遣、サポート(補佐)している。  
(授業サポート、放課後子ども教室、PTA活動など)

○NPO 法人長洲にここクラブ

- ・夏休みの小学校水泳補習授業に参加

○オレンジはあとクラブ

- ・期間種目の水泳で、小学校プールを借用している。

○小国ゆうあい倶楽部

- ・小学校の部活動社会体育移行に向けての話し合いを持っている。

○菊池“ゆ”ったりスポーツクラブ

- ・学校へ出向き、総合運動クラブとして年間を通して各学校で実施している。

○高 SPO

- ・外部指導者を小学校に派遣している。

#### ◆中央ブロック (11クラブ)

○NPO 法人桜木ふれあいスポーツクラブ

- ・平日の夕方や、休日の学校施設使用の協力について
- ・部活動社会体育移行についての相談

○ほくぶ総合スポーツクラブ

- ・放課後スポーツ教室の開催(川上小学校、西里小学校)
- ・管内の3小学校(一部スポーツクラブの会員も)を対象とした「子どもスポーツフェスタ」をスポーツク

ラブ主催で年1回開催(野球、サッカー、ミニバスケットボール)

○龍田地域なかよしスポーツクラブ

- ・中学校の外部コーチとして、クラブの指導者を派遣している。

○長嶺地域スポーツクラブ

- ・小学校部活動のスポーツクラブへの移行に向けた取組がスタートした。

○東部地域総合型スポーツクラブ

- ・クラブの指導者を小、中学校の部活動に外部指導者として派遣している。

○NPO 法人スポレク・エイト

- ・クラブの指導者を小学校の部活動に外部指導者として派遣している。
- ・小学校部活動から社会体育(スポレク・エイト)に移行する種目がある。

○城北スポーツクラブ

- ・小学校の部活動であった野球部をスポーツクラブで請け負い、城北スポーツクラブと小学校との連携で活動をしている。

○NPO 法人 u&uN スポ植木

- ・小学校運動部活動の社会体育移行の準備に伴い、早い時間帯、休日を小学校にお願いして開放していただいている。

○あきた総合型スポーツクラブ

- ・小学校の部活動(剣道)をクラブに指導者ごと引き込んでいる。

○田迎地域スポーツクラブ

- ・双方で何ができるかの話し合い

○火の君スポーツクラブ

- ・放課後子ども教室の実施

◆南ブロック (11 クラブ)

○NPO 法人うとスポーツクラブ

- ・宇土市はすでに全ての小学校部活動が廃止、社会体育へ移行済であるが、教育委員会、学校との連携のもと5つの教室を立ち上げている。練習場所等の減免や倉庫の借用などお願いしている。

○あいあいスポーツクラブたらぎ

- ・中学校の部活動の場として、クラブが委託管理している施設を提供している。  
バスケットボール、バレーボール(体育館) 野球、陸上(多目的グラウンド)

○太田郷スポーツクラブ

- ・クラブの指導者と小、中学校部活動の外部指導者が同じである種目が複数ある。
- ・週1回、放課後体育教室(わんぱくクラブ)を行っている。

○カルヴァーリョ・ラッソ人吉

- ・クラブの指導者を中学校の外部指導者として派遣している。

○I・YOU スポーツクラブ

- ・クラブの指導者を中学校の部活動に外部指導者として派遣している。

○UK I おがわクラブ

- ・外部指導者として活動中(サッカー)

○アロマクラブ

- ・近隣の高校生に指導のサポートをしてもらっている。

○総合型地域スポーツクラブ DREAM 火流

- ・クラブの指導者を小学校の部活動に外部指導者として派遣している。

○嘉島町総合型地域クラブ

- ・組織のクラブ運営委員に町校長会長を選任している。

○NPO 法人ヴィラノーバ水俣

- ・31年度に小学校の運動部活動廃止に伴い、市教育委員会の社会体育検討委員会の委員として、今後社会体育移行に協力していく。

○やつしろ総合型クラブ「リ・ボンズ」

- ・小学校 PTA 活動の派遣を受けている。

## 2 小学校運動部活動の社会体育移行に係る市町村ごとの話し合いに関するクラブとしての対応

(1)地域や学校で話し合い(検討委員会、校区・校内委員会等)が行われているか

いる (71%) 48 クラブ (北 14、中 6、南 28) いない (22%) 15 クラブ (北 1、中 13、南 1)  
わからない(4%) 3 クラブ (北 0、中 2、南 1) 移行終了(3%) 2 クラブ (北 1、中 0、南 1)

(2)話し合いの組織の構成団体に入っているか(48 クラブが対象)

入っている(79%) 38 クラブ 入っていない(21%) 10 クラブ

(3)受け皿として受け入れ協力は可能か(移行を終了した 2 市町を除く 66 クラブが対象)

可能 (20%) 13 クラブ 不可能 (12%) 8 クラブ

条件が整えば可能 (68%) 45 クラブ(複数回答可)

○指導者支援(35 クラブ) ○スタッフ支援(22 クラブ) ○会場確保(15 クラブ)

○その他

- ・社会体育化のシステムにより、受入れの意味が変わるのでは？
- ・地域で、有識者でも社会体育とはどういうことかを共通した理解を持たなければ解決はできない。そこを作成している。
- ・検討中。
- ・活動時間帯の調整。(現在の部活動の時間帯では指導者の確保が難しい) 学校教職員との連携等。
- ・一部のプログラムでは行っている。
- ・会場の確保、学校への紹介等運営サポート。
- ・クラブ活動をする時間帯。
- ・クラブが全ての部活動を受け入れることは不可能である。町内に存在する JR クラブとの連携や、検討委員会での結果を踏まえながら足並みを揃え解決していく。
- ・現在、クラブの教室は指導者数に対して子どもの数が過多となっているのが現状だが、教室参加希望の小学生にはできる限り対処するため、指導者増を模索したい。教室開始が 18 時以降でなければ難しいことはあるが、教育委員会と話し合いを密にしてよりよい方向を探さなくてはならない。
- ・クラブの法人化。
- ・受け皿は未定。現在行っている部活動の時間で運動できる取組を検討しているので、総合型クラブが受け皿となることは考えていない。
- ・事務的サポート、運営管理等。
- ・子ども数が減少し、スポーツのチームとしての人数に満たないことがある。その中で受け皿としてではなく、部活ではなく総合型クラブに来てもらえるような取組を行いたい。

## 3 小学校運動部活動の受け入れについての話し合いはなされているか

(1)いない(24%) 16 クラブ

(2)いる(63%) 43 クラブ

- ・人気がないマイナー教室の受け入れは可能。人数が多い人気教室は不可能。
- ・部活動の全面受け入れは可能か、その場合の受け入れのやり方は？
- ・現在の進捗状況の周知。意見の集約。
- ・平成 31 年度から社会体育になることについては、クラブの運営委員会で教育委員会から説明を受けている。
- ・プログラム、イベント等、クラブの組織について。
- ・陸上を小学校で実施し、指導者を派遣する。
- ・事務局機能やプログラム作成、指導者の派遣等について。
- ・受け入れ可能なプログラムや指導者について。
- ・受け入れ可能なプログラムや指導者の確認、職場へのお願いなどを行っている。
- ・現在、総合運動クラブなど指導者派遣をして活動を実施している。
- ・受け入れ可能なプログラムや指導者の確保について。
- ・受け入れ可能なプログラムの検討。実施日数の検討。受け入れた場合の費用の検討。
- ・野球、サッカー、バスケットボール、バドミントンは可能。平成 31 年度から地域スポーツクラブへ移行するという話はあるが、教育委員会や学校から話はない。

- ・受入れ可能なプログラムでの話し合い。
- ・小学校長より話があり、各指導者に通達して準備中。
- ・まだ話し合いが始まったばかりだが、協力できる点を少しずつ見つけたい。地域(PTA)などを中心に具体案を探したい。
- ・毎回理事会等で議題として取り上げ、役員一同で共有化している。
- ・毎月の定例会で毎回話し合っている。学校での保護者への説明済み。
- ・学校の方針がどのようなものかわかってからの対応について。
- ・週2回程度のサッカーならできるかと思う。平日の夕方に週何度も教えられる指導者はいない。
- ・受入れ可能なプログラムや受入れ方法等。
- ・話し合いは設けているが、なかなか進まない。
- ・現クラブで新しいプログラムを始めることができないか。現存プログラムで受け入れができないか。
- ・県内で行われている研修会に積極的に参加することで共通意識を持つことができているが、温度差がある状況である。
- ・各教室受入れは可能であるが、従来の部活動時間帯には指導者派遣は不可能。
- ・受入れ可能なプログラムや指導者について。
- ・受入れ可能なプログラムや指導者や会場について。
- ・市内3クラブで会合と市社会体育移行検討委員会委員として参加。
- ・当クラブで行っているソフトテニスとバドミントンでは受入れは可能である。
- ・学校の状況が確実に把握できていないので、話が停滞状態。
- ・受け皿になる教室を本年度よりスタート。
- ・なかなか進んでいない。
- ・協議はしているが、行政の意向と相違点があるため受入れ自体は現在の状況では不可能。
- ・現在クラブ数が4種目であるが、来年度から部活動が社会体育に完全移行するため、クラブ数を9種目に増やす予定である。その9種目のうち1種目は総合運動クラブを作り、どのクラブにも加入していない児童を対象に放課後活動をする予定である。
- ・話し合っているが、受入れとしては難しい。
- ・クラブの会長が検討委員会の委員で、移行クラブの新たな規約作成や指導者の確保(委嘱等含む)、実施場所、時間帯について話し合いを行っている。
- ・話し合いはするが、対応までには至っていない。

### (3)既に受け入れている(13%) 9クラブ

- ・平成29年度からエリア内小学校バドミントン部はクラブの教室としてクラブ指導者が指導に行き活動している。
- ・平成27年度からエリア内小学校サッカー部を社会体育へ移行した。総合型クラブから指導者を派遣している。ロアツ熊本から1名。
- ・既に野球部、サッカー部、剣道部を受け入れた。新年度体制になり再度話し合いが必要。
- ・平成29年度から野球部を総合型クラブへ移行。指導者は総合型クラブ指導者として雇用。会場は小学校グラウンド 活動は週2回で16時30分～18時30分
- ・平成28年度から野球部が移行。指導者は総合型クラブ指導者。平成24年度から移行した種目有り。指導者は総合型クラブ指導者と教員。
- ・平成28年度から野球部を総合型クラブへ移行。指導者はクラブ指導者。
- ・平成29年度から1つずつ移行。
- ・宇土市の場合、2年間で移行は終わっている。スポーツクラブ発展の機会と位置付け、率先して動いてきた。既に5つの教室を立ち上げ、既存の教室への入会も勧めている。
- ・平成27年度から野球部を総合型クラブへ移行。指導者は教員とクラブ指導者。平成27年度からミニバスケットボール部を総合型クラブへ移行。指導者は元学校事務職員。(現在再任用中)
- ・野球、サッカーを移行済み。
- ・平成28年度から野球部を総合型クラブへ移行。平成29年度からバスケットボール、剣道を総合型クラブへ移行。野球、剣道の指導者は部活動から引き続き地域指導者による。

## ◆PART III 公益財団法人熊本県体育協会が主催する事業について

### 1 「地域スポーツ振興」講師等派遣事業(指導者謝金を県体協が負担)の活用について

(1)現在のところ必要性がない(46%) 31 クラブ

(2)できれば活用したい(54%) 37 クラブ

- ・金額と活用に必要な事務労力の費用対効果と継続性を考慮した上でメリットがあれば・・・。
- ・ハンドボールとラグビーの教室イベントを開催したい。
- ・本年度申請しています。
- ・ウォーキングの指導(正しいウォーキングを学ばせたい) 健康体操(体操を学び、クラブ独自の体操を考え、会員～村民へ普及させたい)
- ・バレエ、陸上、ゲートボール教室を開催し、指導方法を学ぶとともに参加者を対象にプログラム化する。
- ・毎年、有効活用させて頂いている。
- ・是非活用したい。大人の体操には講師費用負担が大きい。また、子ども向けの夏の教室にも活用したい。
- ・開催種目の教室を開催し、指導方法を学ぶとともに指導者のレベルを高めたい。
- ・指導者がいて経済的な心配がなければ、いろいろな種目に取り組んでみたい。
- ・昨年利用したが、今年もできれば利用したい。クラブのPRのためにも進めていきたい。
- ・プログラム事業が衰退する中、イベントを中心としたクラブの存在意義を伝えたい。
- ・まだ、具体的には考えていないが、できれば活用し会員増加につなげたい。
- ・指導者研修会を開催し、指導者のモラルを高めたい。
- ・以前活用したが、学校との折り合いが難しかった。
- ・教室開催時の安全講習やリスクマネジメント研修など指導者の資質向上を図る。
- ・どのようなものを開催したらいいか模索している。
- ・指導者研修会を開催し、指導者のモラルを高めたい。
- ・様々な種目の指導者を派遣していただき、指導力の向上や競技力の向上を目指す。
- ・指導者資格のない指導者がいるソフトテニス教室では、会員への指導はもちろん、指導者への指導の仕方も学びたい。
- ・指導者、保護者が子どもの運動への関わり方を学ぶ場を設定したい。
- ・地域の指導者を活用することにより、指導者の確保・育成を図り、新たな教室等の開催に向けた取組として活用したい。
- ・クラブスタッフ及び指導者研修会を開催し、両者の資質向上を図りたい。
- ・バスケットボール部やバドミントン部を開催し指導方法を学ぶとともに、参加者を対象にプログラム化する。

#### ◆PARTIV 公益財団法人熊本県体育協会の内部組織「スポーツ少年団」について

##### 1 スポーツ少年団が行っている事業を知っていますか。

(1)参加したことがある(4%) 3クラブ

(2)事業内容も知っている(35%) 24クラブ

(3)組織名は知っている(55%) 37クラブ

(4)知らない(6%) 4クラブ

##### 2 貴クラブにスポーツ少年団を取り込んでいますか。

(1)いる(7%) 5クラブ

(2)いない(93%) 63クラブ

##### 3 スポーツ少年団の活動に興味がありますか。

(1)ある(55%) 37クラブ

(2)ない(44%) 30クラブ

※未回答(1%) 1クラブ